

平成22年度シラバス	学年・期間・区分	1年次・通年・必修
	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科
基礎製図 (Basics of Design Drawings)	担当教員	西留 清 (Nishidome, Kiyoshi) 岡松 道雄 (Okamatsu, Michio)
	教員室	都市環境デザイン工学科棟3階 (Tel. 42- 9119) 都市環境デザイン工学科棟3階 (Tel. 42- 9122)
	E-Mail	nisidome@kagoshima-ct.ac.jp okamatsu@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習 / 履修単位 / 2単位	
週あたりの学習時間と回数	授業 (100分) × 30回	
〔本科目の目標〕 製図の基礎知識および技術の習得を目的とし、都市環境に関する実用製図の面に役立てる。		
〔本科目の位置付け〕 土木・建築構造物に限らず、いまや、あらゆる分野にわたる製図がCADを用いて行われている。しかし、その基礎は、2点が結ばれた直線、3直線以上が結ばれた平面である。これら、点、直線、平面の投象を手描きの図面としてトレーニングすることで良く理解する。また、建築士の受験を前提とした製図の基礎を身に付ける。		
〔学習上の留意点〕 立体構造物の感覚を最終目的とするため、基礎的な点・直線の投象を必ず理解する必要がある。また、将来建設関係の職業に携わるための基本的な製図の基礎を身に付けることを念頭にいれる。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 直線および円弧	8	直線および円周の等分法と円弧の直延および円周または半円周の直延を理解できる
---	6	演習
---	2	前期中間テスト
---		授業項目について達成度を確認する
2. 創造構造物	2	21世紀型創造構造物のデザインを描き、デザイン力と創造性を養うことができる
3. 投象	12	投象、正投象、点の投象および直線の投象を理解できる
---		直線の実長と傾角、平行な直線および相交わる直線を求めることができる
---		演習
---		前期期末テスト (授業時間に実施する)
---		授業項目について達成度を確認できる
試験答案の返却・解説		各試験において間違った部分を理解できる
4. 建築における製図の役割	2	図面の持つ意味、約束、建築生産における製図の役割について理解できる
5. フリーハンド図の作成	2	フリーハンドで身近な住宅を表現し、その効果と限界を理解できる
6. 建築製図の基礎・製図用具	1	製図の基礎・道具について学習し、使い方を理解できる
7. 線と文字の練習・製図規約	1	文字の大きさと線および文字の書き方を習得できる
8. 縮尺・開口部・壁の種類と描き分	1	縮尺の持つ意味、縮尺ごとの表現の違いとその描き分けを理解できる
9. 材料・構造表示記号	1	建物の材料ごとの表現の違いを理解し、描き分けることができる
10. 平面図のトレース	2	製図の基礎をもとに、住宅図面のトレースを行い、基礎的事項を確認できる
11. 図面の意味・平面図の描き方	4	平面図の意味を理解し、描き順、線の意味などを意識しながら描く(1/100)ことができる
12. 断面図の描き方	4	断面図の役割を理解し、描き順、線の意味などを意識しながら描く(1/100)ことができる
13. 立面図・屋根伏せ図の描き方	4	立面図・屋根伏せの役割を理解し、描き順、線の意味などを意識しながら描く(1/100)ことができる
14. 配置図の描き方	2	配置図の役割を理解し、描き順、線の意味などを意識しながら描く(1/100)ことができる
15. 住宅模型の製作	4	これまでに描いた図面をもとに、起こし絵の要領で模型を制作する(1/100)ことができる
16. プレゼンテーション	2	これまでの課題からひとつを選択し、着色等のプレゼン用の図面を作成することができる
課題作品の提出		中間期末共にテストは行わず、各課題提出によって授業項目についての達成度を確認する
課題作品の返却・解説		各課題において作品の完成度を自己評価できる
〔教科書〕なし		
〔参考書・補助教材〕プリント		
〔成績評価の基準〕定期試験(30%)＋レポート・ノート・課題提出(70%)－授業態度(上限10%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕3-c		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕		
〔JABEEとの関連〕		